

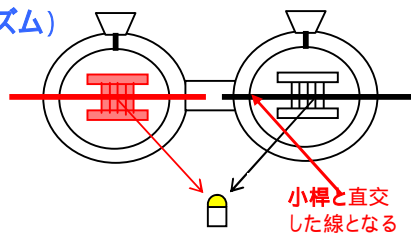
回旋偏位検査 自覚的検査 (Maddox 二重棒: double rod: テスト)

目的 上下斜筋麻痺やA V型斜視に伴う回旋偏位の検出と定量

準備物 赤と白 Maddox 小棒・光源(ペンライト)・検眼棒・(5~6 のプリズム)

暗室にて、通常、回旋偏位があると
思われる眼に赤の小棒を、他眼に白
の小棒を、小棒方向が検眼棒の 90°
の位置になるように装用し、確認した
い距離で点光源を注視させる

右眼は赤、左眼は白と
決めてしまう場合もあり。(視
能矯正学 P230 参照)また、
白の方がより自然に近いの
で視力不良眼又は非優位眼
に白装用となっている場合も
ある。(眼科検査法ハンドブ
ック4版より)



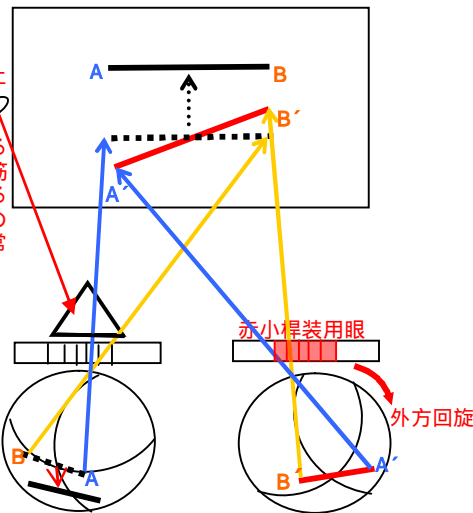
左右眼
が完全に分離す
るので最大回旋
偏位が測定でき
るよ！すなわち
融像する材料と
なる物が無い。

YES 頭をまっすぐにして、赤い線と
白い線が離れているか？ NO

片眼に 5~6 のプリズムを
基底上又は下方に装用する

上下偏位がない場合、
一眼に5~6 を基底上
方又は下方に装用し、2つ
の水平線を分離させると
判り易い。でも上下筋
の麻痺で回旋偏位ある
場合、上下にずれるの
はあたり前なので通常
必要なし。

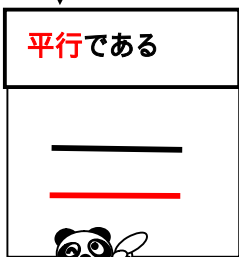
例) 右眼外方回旋斜視



説明 後方から見た図
視空間では、網膜の位置の左右上下が
反対の位置に見えるので、左眼の鼻側
網膜の像 A は実際には左側青矢印に、
耳側網膜の像 B は、右側橙矢印に見
え、プリズムを基底下方に装用すると、
線は基底方向に曲がるので網膜下方に
投影され、実際には線 AB は上方実線
に移動する。右眼では外方回旋斜視が
あるので上耳側網膜の像は左下側青矢
印 A'に、下鼻側網膜の像は右上側橙矢
印 B'に見える。

YES 頭をまっすぐにして、赤い線と白い線が平行であるか？ NO

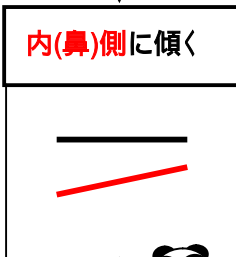
* 図は右眼に赤小棒装用の場合



水平偏位がある
と横にずれる場
合があるよ。

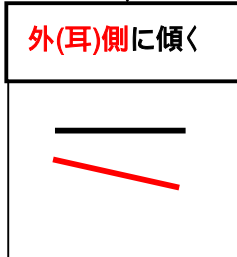
回旋偏位なし

抑制がなく被検者が
日常、傾いて見える
意識があれば斜視。



左右のどちらの眼
が内・外に傾いてい
るのかをチェック！！

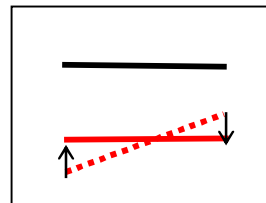
傾いた線の眼の
外方回旋斜視(位)



傾いた線の眼の
内方回旋斜視(位)

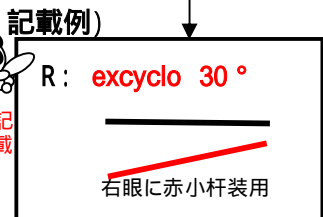
2つの線が、平行になるまで小棒を外方回旋は外方
に内方回旋は内方に回す

例) 30° 外方に回すと平行になった！



その検眼棒の数字と回した方向が回旋偏位の大きさと方向(単位は度)

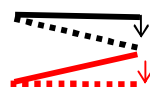
角度による
定量が
出来るよ！



判定基準) 視能学 P322 より
正常者の平均: 第一眼位で
0.33 ± 0.31° 外方回旋偏位

自分の結果を書いておこう！

注意！！
回旋眼が固視眼になることがある。
例では右眼外方回旋斜視だが、本
当は左眼が回旋眼(白の小棒の方)
だった場合(回旋眼の視力の方が良
かったり、優位眼であった場合など)



破線が実際の図であり、左眼外
方回旋斜視の場合もありうる。
麻痺眼固視の場合、回旋偏位度
は多くなる。

記載の図は
平行にする前を描く。
屈折矯正の有無も記
載すべきだが、記載
は色々。

短所

・回旋斜視と回旋斜位の区別
ができない。
・暗室にしなければならない。
(日常から離れている)

長所

回旋偏位の量的診断ができる。